名城大学 環境報告書

MEIJO UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT 2013

2013

目次

大学案内

1　目次・編集方針
2　学長メッセージ
3　理念
4　組織機構図
5　キャンパス紹介

環境マネジメントシステム

7　名城大学環境方針
8　環境マネジメントシステム組織図
9　ISO14001 登録状況及び環境監査
10　マテリアルバランス
11　目的目標と達成状況
13　省エネルギーの推進
15　省資源の推進
16　廃棄物の適正管理
17　化学物質の適正管理
18　法令順守・グリーン購入

環境・社会活動

19　環境教育
22　環境活動
24　社会貢献活動
27　労働安全衛生の取り組み

編集後記

29　総括環境管理責任者からのメッセージ
30　ガイドライン対照表

編集方針

本報告書は環境教育資料の一環でありながら、本学学生、教職員、近隣地域住民の皆様及び本学への進学を希望される皆様に向けた、「環境·安全·防火防災」の内容を盛り込んだ社会的説明責任を果たすべく書物として編集していきたいと考えています。

報告対象期間:

2012年(平成24年)4月～2013年(平成25年)3月

報告対象組織:

名城大学全キャンパス

発行年月:

2014年(平成26年)4月1日

公表方法:

名城大学ホームページにて公表

URL: http://www.meijo-u.ac.jp/kankyo/index.html

参考にしたガイドライン:

環境省「環境報告ガイドライン 2012年版」

学長メッセージ

名城大学 学長
中根 敏晴

社会から評価され信頼され、支持される大学の実現に向けて

環境保全と汚染の防止への取り組みは、組織が活動する上での前提条件であり、社会的信用を醸成するための不可欠な要素の一つです。本学は大学という教育研究機関として、このことに主体的かつ積極的に取り組んでいます。そして、より効果的にこの責任を果たすために、法人、大学及び附属高等学校の組織を範囲とした環境マネジメントシステムを構築してきました。平成14年6月には愛知県内の4年制大学で初めてISO14001の認証を取得し、以来、これまでに3回の更新審査を経て参りました。

本学は教育研究活動を行うため、多量の電気·ガスなどのエネルギーを始め、水や紙などの資源ならびに多種多様な化学物質を使用し、キャンパス内で多量の廃棄物を排出しています。これらは、法的義務や自主的な目標設定により削減や適正な処理に取り組んでいます。また、太陽光を利用したソーラーパネルの導入、地中熱を利用したクールチューブの設置等、再生可能エネルギーの利用によって化石エネルギーの軽減に努めています。

実践的な教育として、空き教室の消灯や冷暖房の停止、ごみの放置状況の調査を行う環境パトロールや環境をテーマとした講演、シンポジウム等を行う「ISO14001(環境)フォーラム」などを継続して実施しています。

これらの活動の取り組みが評価され、大変喜ばしいことに平成24年には名古屋市長から、環境に配慮した事業所として「なごや環境活動賞」を受賞しました。本学はこの受賞に甘んじることなく、今後一層厳しくなると思われる環境問題を主体的かつ真摯に取り組んで参ります。これから社会で活躍していく学生に対しては、「環境問題は万国共通の課題」であることを認識していただき、環境に配慮できるグローバル人材となって欲しいと思います。

新たな段階として本学では、平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地における復興支援活動、大震災を教訓とした東海·東南海·南海地震への防災体制の構築、化学物質の取り扱いを含む学生及び教職員の安全確保、持続可能な社会に向けた環境保全への取り組み、等について連携した体制の構築を目指していきたいと考えます。

引き続き、教職員、学生、ステークホルダーの理解と協力を得ながら、これらの課題に対して地道に取り組み、私が学長就任以来提唱している「社会から評価され信頼され、支持される大学」の実現に向け努力して参ります。

最後に、この報告書を手に取られた皆様から、本報告書に対する忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

理念

［立学の精神］

穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

立学の精神、そのなかに含まれる4文字、「穏」「健」「中」「正」、この4文字の意味するところを身につけることができれば、広く社会の人々から信頼をうけることができるのではないか。そして、この4文字の意味を体して、力強く、実践を積み重ねるとき、きっと個人の生涯は大きくその門を開くのではないでしょうか。

穏 平和であたたかく、穏やかであること。

健 秩序と調和と確実さをもって、支障なく、力強く前進すること。

中 謙虚にものごとの核心をつかみ、包容力ある立場にあること。

正 ものごとに、折り目、けじめをつけ、順逆をわきまえて筋を通すこと。

立学の精神の実現化に向け、3つのキーワードをかかげ、総合大学としての理想を追求します。

総合化の推進

文系･理系学部がバランスよく設置されている「総合大学」の特色をさらに生かすため、学部の枠を超えて柔軟に学ぶことができる「他学部履修制度」などを実施。社会の諸問題に柔軟かつ総合的に対応できる人材の育成に努めます。

高度化の推進

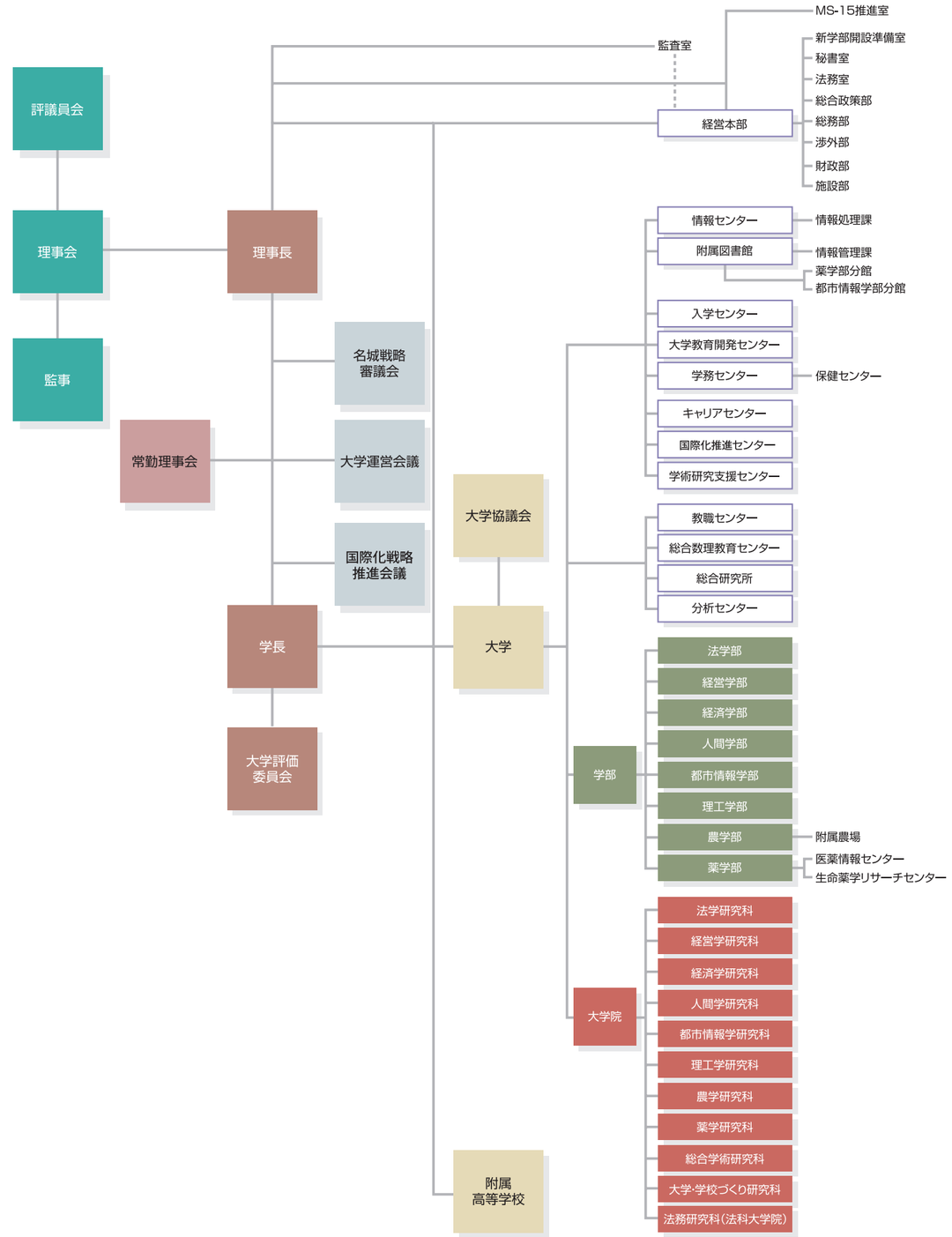
大学院と各学部･学科、さらに総合研究所が一体となって研究活動の高度化を追求。その成果を積極的に社会へ還元していきます。

国際化の推進

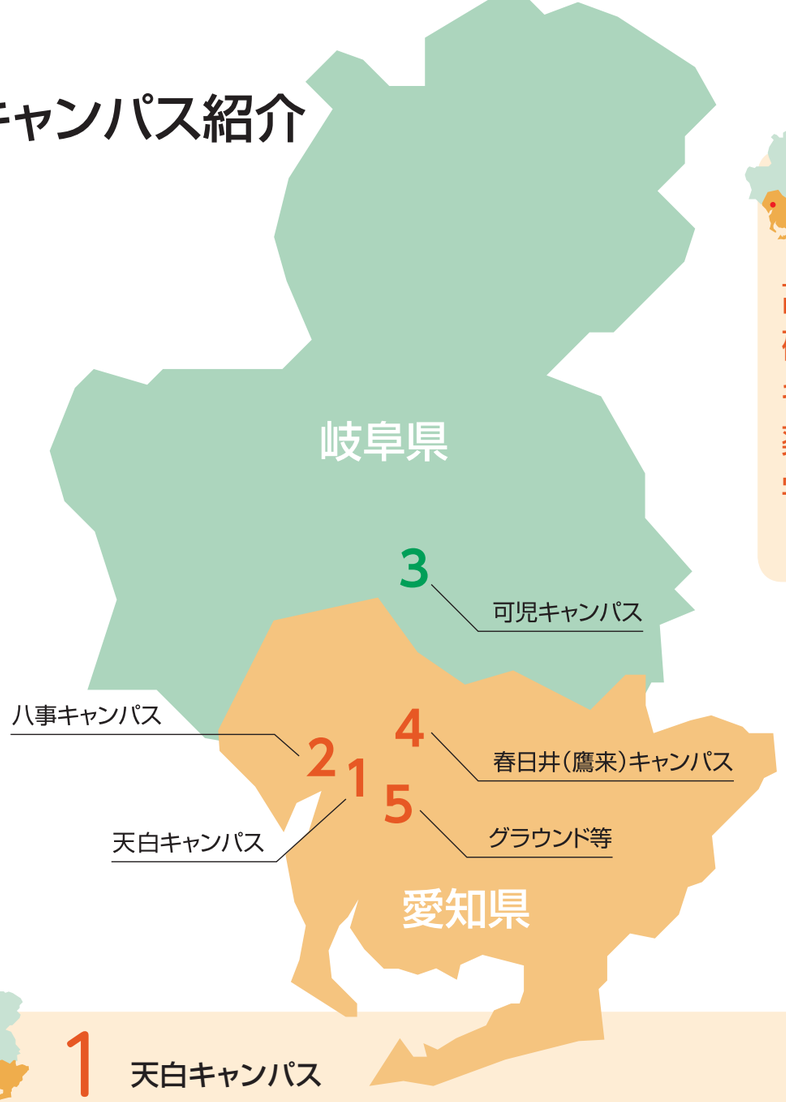
留学生の受け入れや外国人研究員の招聘、外国の大学･研究機関との学術提携などを通じて、国際交流をさらに活発に進めていく方針。国際化の時代の流れを的確にとらえて教育の場に反映させていきます。

組織機構図

平成25年6月1日現在



キャンパス紹介



1 天白キャンパス

名城大学のランドマーク「タワー75」を中心に
6学部の施設・設備が並ぶメインキャンパス。

大学のシンボル「タワー75」や「共通講義棟(南)」「共通講義棟北」「研究実験棟I」などには、充実の最新教育機器を完備している。そして、最新鋭の研究拠点「研究実験棟II」が平成25年3月に完成。

法学部　経営学部　経済学部　人間学部　理工学部　農学部

法学研究科　経営学研究科　経済学研究科　人間学研究科
理工学研究科　農学研究科　総合学術研究科　大学・学校づくり研究科
法務研究科(法科大学院)

校地現有面積	127,011㎡
校舎等現有面積	167,390㎡
学生数(大学院生含)	13,144名
教職員数	696名

(2013.5.1現在)

〒468-8502名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL 052-832-1151(代)

地下鉄鶴舞線
「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約4分

2 八事キャンパス

高度な教育・
研究施設が揃う
キャンパスで、
薬学部の学生が
学びます。

丘の上のキャンパスは東海地方で最も伝統のある私大薬学部。半世紀を超える伝統と実績を活かし、薬学教育の理想を追求。薬学研究の充実と薬学部6年制に対応するため、最新の教育・研究施設を完備した「八事新2号館」が平成24年11月に完成。

薬学部 薬学研究科

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150　TEL 052-832-1151(代)
地下鉄鶴舞線・名城線　「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

校地現有面積	17,553㎡
校舎等現有面積	32,552㎡
学生数(大学院生含)	1,620名
教職員数	88名

(2013.5.1現在)

3 可児キャンパス

キャンパスのシンボル
「虹のモニュメント」が
煌めく先進の
IT環境が整った
自然豊かなキャンパス。

都市と自然が調和するITを網羅した環境。
都市と情報をテーマに、文理融合を追究する。

都市情報学部 都市情報学研究科

〒509-0261 岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3
TEL 0574-69-0100(代)

名鉄広見線「西可児」駅下車、徒歩約15分
(名鉄「犬山」駅から通学バスで15分、
「西可児」駅から通学バスで5分)

校地現有面積	148,782㎡
校舎等現有面積	12,810㎡
学生数(大学院生含)	895名
教職員数	37名

(2013.5.1現在)

4 春日井(鷹来)キャンパス
(農学部附属農場)

13ヘクタールの広大な敷地に広がる果樹・蔬菜・花卉や樹林、畜舎など、農学部実習農場や研究農場として使用されています。自然豊かなキャンパス。

〒486-0804
春日井市鷹来町字菱ヶ池
4311-2
TEL 0568-81-2169

校地現有面積	136,860㎡
校舎等現有面積	5,574㎡

(2013.5.1現在)

5 グラウンド等
(日進総合グラウンド 第1・第2グラウンド)

多目的グランドを囲むように野球場
屋外プール、テニスコートなどの
各種競技施設が充実。

〒470-0102 日進市藤島町長塚75
TEL 0561-73-0810

校地現有面積	152,553㎡
校舎等現有面積	4,598㎡

(2013.5.1現在)

環境マネジメントシステム

名城大学環境方針

環境理念

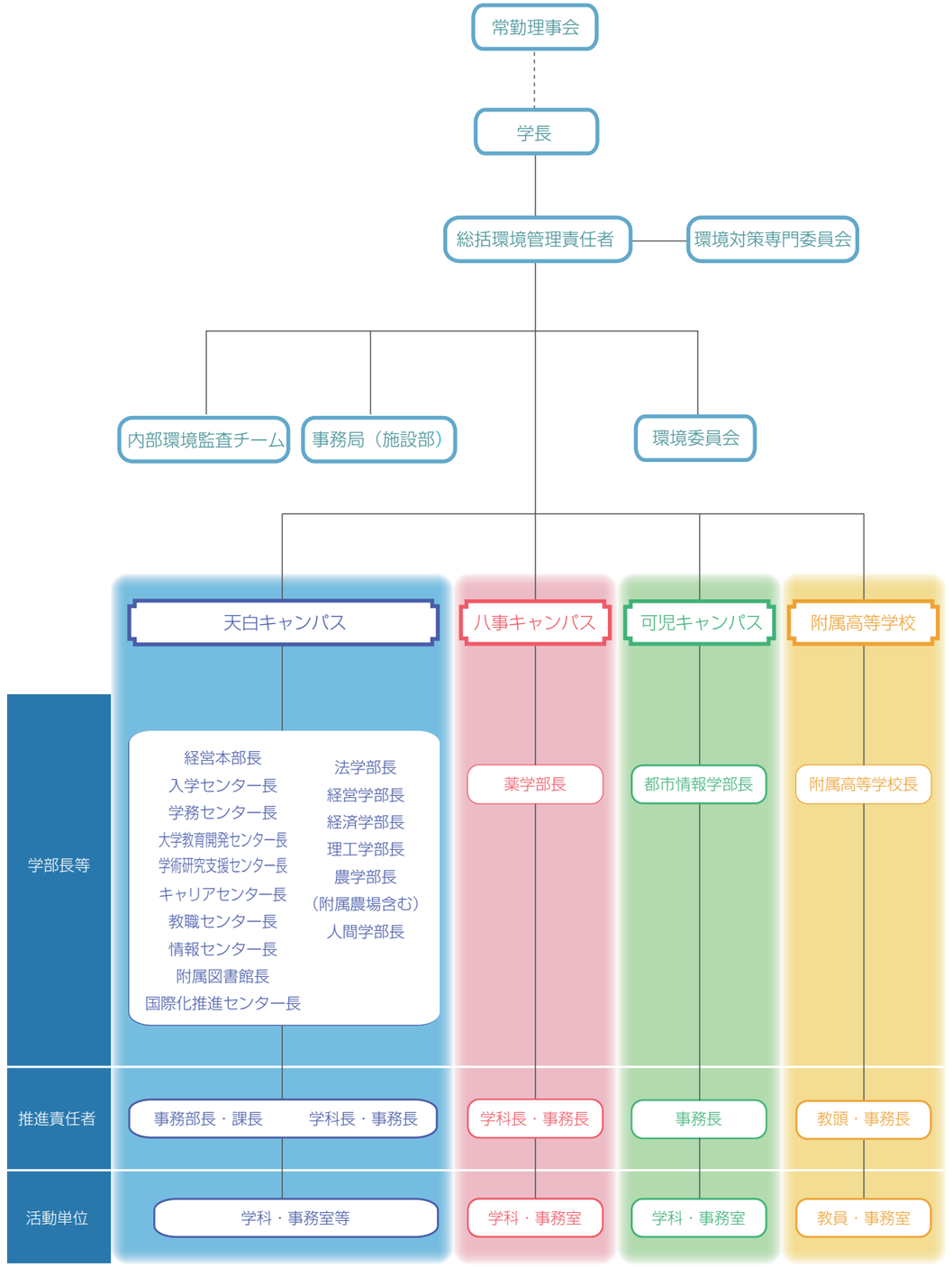
名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の 21 世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

環境方針

①地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
②環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
③省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取組みます。
④教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を順守し、汚染の予防に努めます。
⑤内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
⑥環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
⑦環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成 23 年 4 月 1 日　名城大学 学長　中根 敏晴

環境マネジメントシステム組織図



環境マネジメントシステム

ISO14001認証登録状況及び環境監査

ISO14001認証登録状況

本学はISO14001認証登録後10年目を迎え、外部審査機関による第7回目の定期維持審査が5月16日、17日に実施されました。この結果、重大な不適合はなく、ISO14001認証の登録維持が確認されました。審査チームから優れた点として以下の総評等を頂きました。

①節電対策本部、安全衛生委員会等の充実による施設内の意識向上を狙った取り組みを繰り広げていた点。また、節電対策では学生·教職員の多様な提案により中部電力が設定した目標以上の成果がでている点。

②名古屋市天白生涯センターにて学外講座を開設しており、熱心な市民ニーズに対しての貢献活動として充実していた点。

③新入生への実験の際の導入として安全教育のテキストを作成し、実験設備取り扱い、化学物質の法的要求及び廃棄方法等を教授し、徹底している点。

④PCB含有トランスが厳重な密閉容器に保管され、かつ所在を示す表示版も掲示されており、適切な管理状態にあった点。

本学では、引き続き環境教育の推進、環境負荷の低減を図っていきます。なお、ISO14001認証期限は2014年6月12日です。

審査の様子

ISO14001の登録証

内部環境監査

大学院生及び教職員約80人が内部監査員となり、11月5日～15日に19部署の全活動単位を対象に内部監査を実施しました。

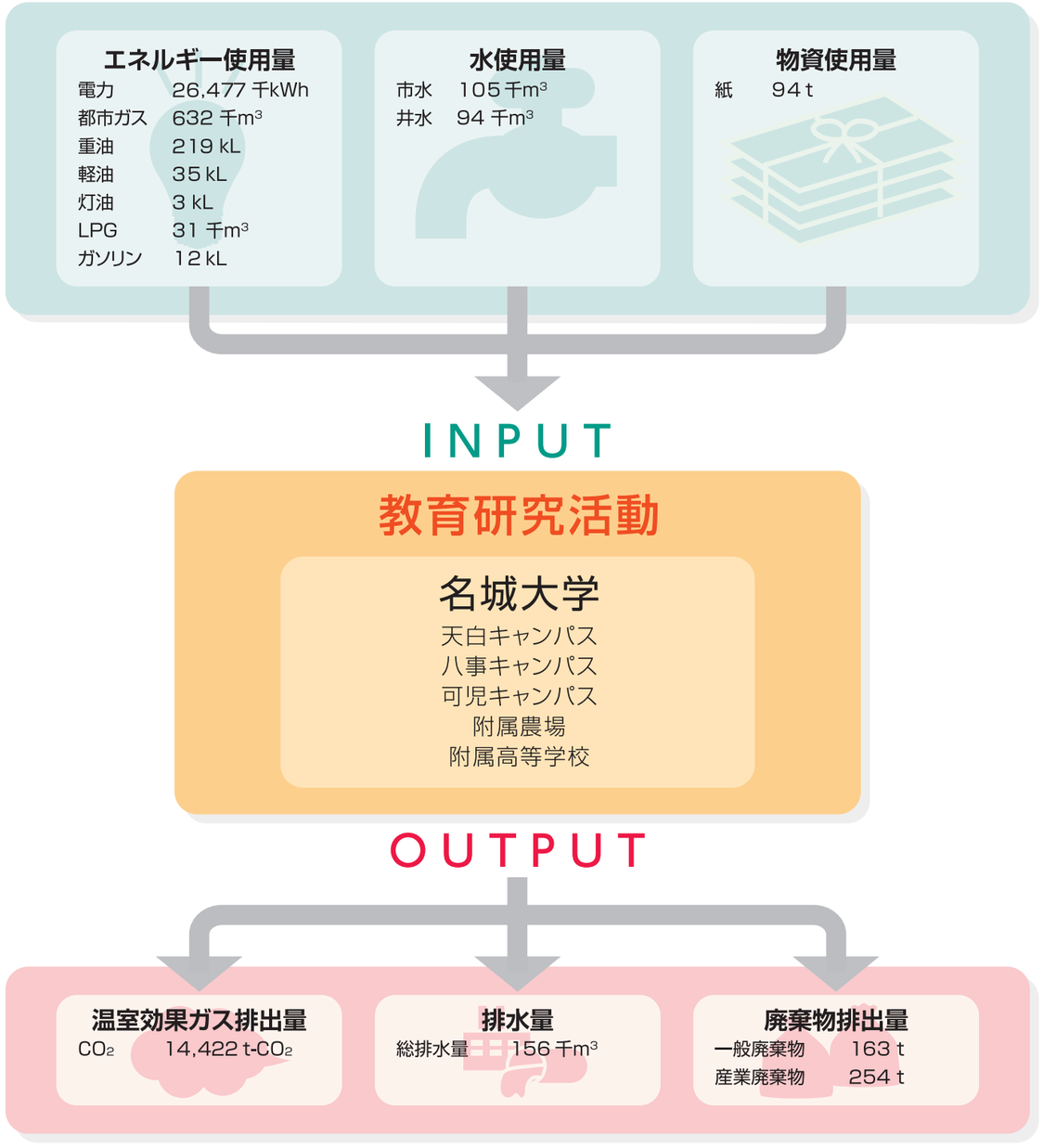
今回の内部監査では、全体で指摘事項が11件（前年度比+4件）、優良な取り組み事項が9件（前年度比△5件）という結果となりました。

指摘事項については、速やかに是正処置を行い、優良な取り組み事項は全学に水平展開しました。特に良かった点は、例年行われる大学行事の一つに環境保全活動を取り入れた事例でした。既存の大学行事に環境のエッセンスを加えることで、手間や資金を省きました。手間と資金を掛けないことは環境活動を長く続けていくための重要な要素であると評価されました。

内部監査の様子

マテリアルバランス

本学では、各キャンパスで使用·排出されるエネルギー、資源及び廃棄物などについてデータを集計し、環境負荷低減に努めています。2012年度の教育研究活動に伴って生じた環境負荷の状況は次の通りです。



環境マネジメントシステム

目的目標と達成状況

本学では、環境方針に従って目的目標を策定しています。2012年度の目的目標と主な取り組み·結果は下表の通りです。

目的	目標	目標値	主な取り組み・結果	学部等
環境に係わる教育活動の推進	環境関連科目の継続的開講	開講率 100%	年間 42 科目の開講：開講率 100%	理工学部
			年間 33 科目の開講：開講率 100%	農学部
			年間 19 科目の開講：開講率 100%	薬学部
	環境に関連する書籍の利用頻度の向上	前年度以上の利用	貸出総数 825 冊：前年度比 57 冊減	附属図書館
	実験実習科目における環境保全指導	実施率 100%	実験実習手引書等での環境・安全の説明の実施。	理工学部
	授業以外の環境教育の実施	年 1 回以上の実施	団体来訪・見学者：1,440 名、個人見学者：69 名を受け入れ。	農学部
			田植祭：280 名、収穫祭：300 名、オープンファーム：524 名の参加。	
	学生・生徒が行う環境行事への支援	クリーンアップ大作戦への参加	年間 20 回参加。（毎回 3 ～ 5 名参加）	経営本部
	大学祭説明会での環境関連事項の説明	説明会及び反省会の開催	大学祭実行委員会の環境局が中心となり、9 種類の分別を徹底させ、ごみの回収・リサイクルを実施。	学務センター
	環境フォーラムへの参加	環境フォーラムへの積極参加の呼びかけ及び掲示での周知	全教職員にメールによる周知を行った。また、学内の環境コーナーでポスター掲示等の案内を実施。	都市情報学部
環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開	公開講座開講	年 2 回以上の実施	年間 3 回実施。	経営学部 経済学部
			年間 5 回実施。	理工学部
			農学部市民開放講座、天白キャンパス公開講座の実施。	農学部
	学外公開講演会・出前講義講師派遣状況の記録	記録 100%	「2013 愛知環境賞」選考委員会委員の派遣。	人間学部
			高校の農学に関する出前講義への講師派遣（延べ 27 名）、春日井市民講座等への講師派遣。(延べ 6 名)	農学部
省資源の推進	実験薬品・材料の購入の適正化	適正管理	不要薬品の定期的な回収、備品の現物確認のため研究室の巡回を実施。	薬学部
	コピー用紙の購入量の削減	前年度実績維持	前年度比 97.0%	附属高等学校
			前年度比 90.3%	情報センター
			前年度比 91.3% 会議資料のペーパレス化·電子媒体の利用拡大、文書の共有化を実施。	学術研究支援センター

目的	目標	目標値	主な取り組み・結果	学部等
省エネルギーの推進	電力・ガス量の削減	1%削減	業務協議会を開催し、食堂業者に省エネ方策の実施を求めた。	学務センター
	電力量の削減		冷房期間中に扇風機を併用し省エネを図った。	学術研究支援センター
			職員・学生スタッフによる巡視により消灯・冷暖房スイッチのオフ等を徹底した。	情報センター
	ガス使用量の削減		冬季の平均気温が低く暖房負荷が増加したため、前年度比 105%となった。	附属高等学校
一般廃棄物の適正管理と減量	環境パトロールの実施	月 1 回の実施	私的ごみの持ち帰りの徹底と館内巡回を定期的に実施。	附属図書館
			毎月末に環境パトロールを実施。	学術研究支援センター
		年 3 回以上の実施	可燃・不燃・紙類の分別徹底指示及び月 1 回のパトロールを実施。	法学部 経済学部 経営学部
		年 5 回の実施	年間 4 回環境パトロールを実施。	大学教育開発センター
	分別の徹底とリサイクル化	リサイクル率 100%	分別回収箱の整理の実施及び配布用パンフレット提供枚数の適正化を図った。	キャリアセンター
産業廃棄物の適正管理と減量	廃棄物処理委託業者の適正管理	処理方法の視察	廃棄物処理業者（2社）の視察を実施した。	経営本部
	PCB 含有使用済電気機器の適正管理	適正管理	適正に管理していることを確認した。	経営本部
再開発工事における環境影響の低減	騒音・振動、土壌調査等の環境問題発生の低減及び発生時の適正処理	設計・解体時における環境側面調査の実施	八事 5 号館及び八事生命薬学リサーチセンター解体工事について監視継続中。	経営本部
法令順守	法令・規則に基づく取り扱いや作業	危険物取扱責任者他で推進	教職員全員にメールにて周知を図った。	農学部
	必要な公的資格の取得推進及び法令・規制に基づき作業を行う	廃棄物及びエネルギー管理に関わる法的資格者の増員	特別管理産業廃棄物管理責任者：1 名	経営本部
		資格作業 100%	甲種防火管理、防災管理、自衛消防業務講習受講。	薬学部

環境マネジメントシステム

省エネルギーの推進

2012年度の取り組み

2012年度は、各エネルギー使用量を前年度比1%削減することを目標に、省エネ活動を行いました。各学部で目標の達成手段を計画し、太陽光パネルの追加導入（10kWh）や、省エネパトロールの実施、打ち水の実施、省エネ意識の啓発を目的としたキャンドルナイトなどを実施しました。

太陽光パネルを追加導入したことにより年間で69,540kWh（2011年度比+17,364kWh）の発電ができました。これは、1人暮らしをする学生38人分の年間電気使用量に相当します。（1人あたりの年間電気使用量を1,800kWhと仮定した場合。）

その他、本学では屋上緑化や藤棚の設置等を行っており、引き続き省エネに配慮したキャンパスづくりを展開していきます。

また、上記に並行して、電力不足解消に貢献し、安定的な電力供給に寄与することを目的に、2011年度に立ち上がった節電対策本部で行った主な取り組みは、以下の通りです。

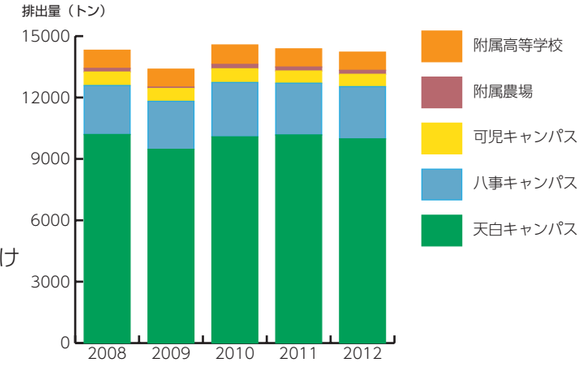
- ·ガス発電機の終日運転
- ·ヒートポンプチラーの運転見直し
- ·エスカレーターの終日停止
- ·研究実験機器等の電源オフ
- ·使用していない部屋の消灯·空調·換気オフを徹底
- ·空調の設定温度の見直し
- ·パソコンを節電モードにする
- ·自動販売機の間引き（5台撤去）
- ·照明機器の間引き
- ·クーリングタワーの省エネモード
- ·冷温水温度の省エネモード
- ·学内への省エネ放送
- ·空調期間の短縮
- ·ノー残業DAYの導入
- ·コピーFAX複合機の省エネ設定
- ·未使用時の湯沸室の湯沸器·換気扇の停止
- ·2、3、4時限の終了30分前の空調停止
- ·ドラフトチャンバー使用時の開閉窓最小化の呼びかけ
- ·節電アイデアの呼びかけ

太陽光パネル

屋上緑化

藤棚の設置

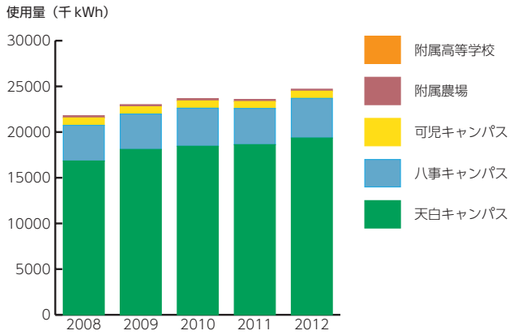
CO_2排出量



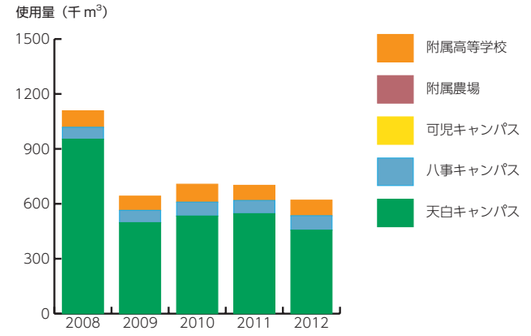
各エネルギー使用量

キャンパス毎の各エネルギー使用量は以下の通りです。

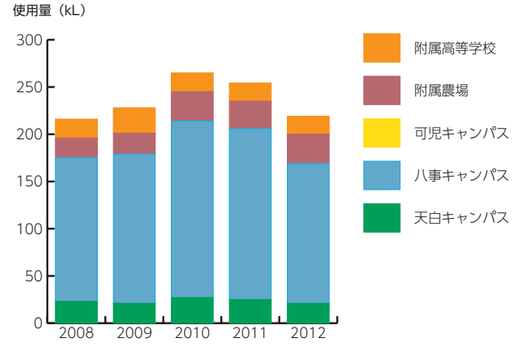
電気使用量



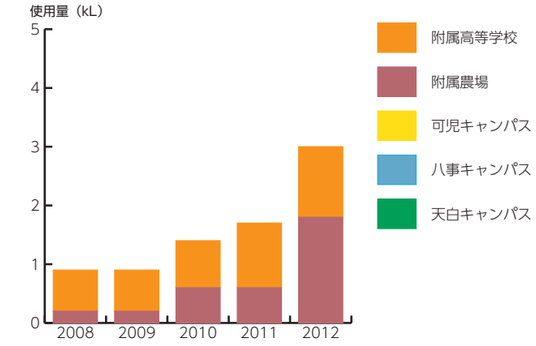
都市ガス使用量



重油使用量



灯油使用量

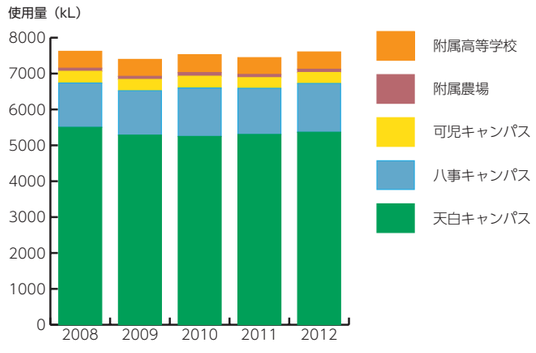


総エネルギー使用量（原油換算）

メインキャンパスである天白キャンパスの総エネルギー使用量は、2011年度と比較して約1%の増加となりました。その他、八事キャンパスでも約5%増加しました。

これは2012年10月に完成した八事キャンパス新2号館が使用開始されたことによるものです。同校舎へ機能を移転した後に、八事キャンパス5号館及び生命薬学リサーチセンターが取り壊されます。

その他のキャンパスは、ほぼ横ばいに推移する結果となりました。



環境マネジメントシステム

省資源の推進

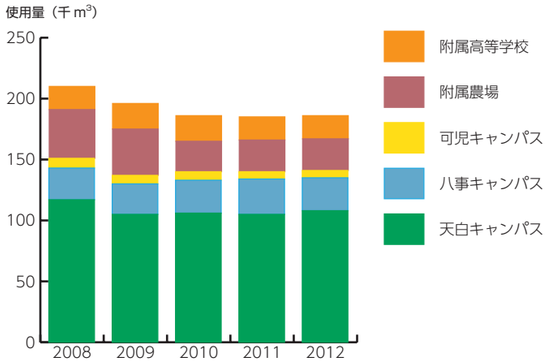
水使用量

水の使用量は、天候や気温など様々な要因によって増減しますが、ここ数年は横ばいで推移しています。漏水や蛇口の開けっぱなしなどを注意し、無駄な水を使用しないよう学生･教職員に啓発しています。

また、本学では積極的に雨水を利用しています。天白キャンパスのタワー75では130㎥、八事キャパスの新1号館では120㎥の雨水槽を地下に擁しています。2012年度は、天白キャンパスで726㎥、八事キャンパスで378㎥を濾過してトイレなどの水として使用し、資源の有効利用を図りました。

また漏水などは、随時監視しており、節水コマも新しい建物に設置しています。

さらに附属農場は、井戸水を散水するなど市水の節約に取り組んでいます。



雨水濾過装置

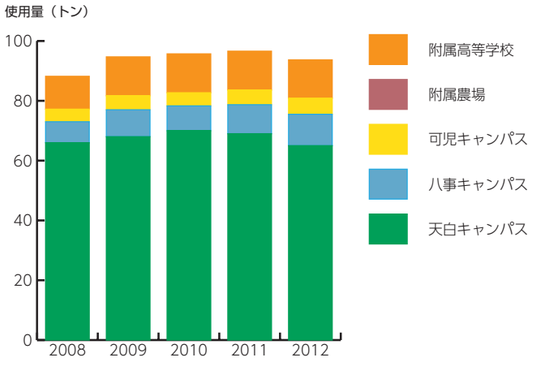
紙使用量

紙使用量の削減のため、各学部等が以下の取り組みを行っています。

･紙使用時にチェックシートの利用（一部）
･2UP印刷の促進（全学的）
･裏面利用の徹底（全学的）
･プリンタの廃止（一部）
･電子媒体の積極的利用の促進（全学的）

紙の使用量は、天白キャンパスが2011年度と比べて5%削減、八事キャンパスは8%増加、可児キャンパスは9%増加となりました。その結果、全体で約2.5%の削減となりました。

引き続き、ペーパーレス化を視野に入れながら、内部監査等で削減を推進していきます。



廃棄物の適正管理

廃棄物削減に向けて、以下の取り組みを行っています。

1.古紙回収の実施

天白キャンパスでは、古紙回収日を年間5日設けています。回収日には全教職員が、9:30～10:30の1時間に自部門における古紙を一斉にグリーンバックと呼ばれる袋に投入します。回収日まで自部門で分別を徹底して保管しています。

2.大学祭前の廃棄物取り扱い説明会の実施

廃棄物が大量に発生する大学祭前には、露店などを出す関係者を集め、廃棄物の減量や分別方法などを指導しています。

3.廃棄物処分場視察

産業廃棄物を含む廃棄物の処分場を定期的に視察しています。2012年度は、学内から排出された汚泥の中間処理施設及び注射針等の感染性廃棄物の一時保管場所の視察をし、廃棄物が適正に管理･処分されていることを確認しました。

4.レジ袋の有料化

名城大学生協では、レジ袋を有料化しています。

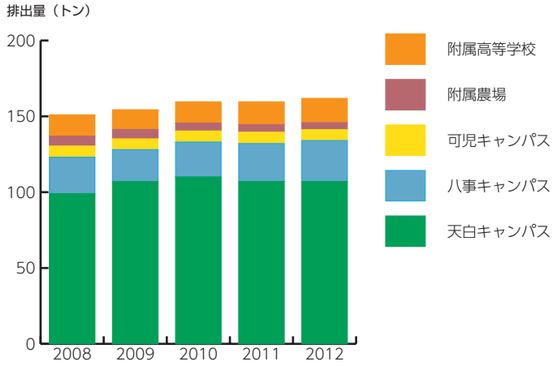
5.リリパックの導入

リリパック弁当箱は、薄いフィルムが貼ってあり、それを剥がすことで、容器の再利用を図るものです。本学生協で販売しているお弁当に採用しています。

廃棄物取り扱い説明会の様子

処分場視察の様子

一般廃棄物排出量



分別 BOX

環境マネジメントシステム

化学物質の適正管理

2012年度の取り組み

化学物質を取り扱う上で、これならば絶対大丈夫というような安全策はありません。そこで決められた規則や手順を守ることが、対策の基本となります。大学の場合、他の業種と比べて「環境や人が短時間で変化や移動し易い」傾向にあることにも注意を払う必要があります。大学で発生する「危険の芽」は、一度摘んでも環境や人が変われば、再び同じものが現れてきます。どんなに対策を講じても、「危険の芽」がゼロになることはあり得ません。そこで本学では、危険性·有害性を可能な限り小さくするための規則や手順等を整備し、維持しています。

また、化学物質につきまとう「危険の芽」を摘むための道具となるように、以下の取り組みを進めています。

1.全学統一管理システムの運用開始

誰もが即座に必要とする化学物質の情報を、正しく知ることができ、簡単な操作で入庫·出庫操作ができ、さらに化学物質の保管状況などのデータが直ちに得られる管理システムの仮運用を2013年4月より開始します。これとあわせて、高圧ガスの一元管理も検討しています。

2.作業環境の調査

誰もが、常に健康かつ安全に作業できる快適な作業環境の維持と、よりよい作業環境を実現するための調査·検討を行っています。

3.安全衛生委員会(産業医と衛生管理者)による定期的な巡視

安全衛生の専門家の視点から巡視を行い、化学物質の取り扱いについての不安全状態の発見だけでなく、作業者が見落としてしまいがちな化学物質の危険性·有害性を事前に察知し、作業者の安全·衛生を確保しています。また、安全衛生委員会では、種々の安全衛生にかかわる問題の審議を通じて学内の作業環境の整備にも努めています。

PRTR対象物質

本学では、PRTR制度で集計が義務付けられている化学物質462種類の移動量を集計しています。2010年度から2012年度における移動量の多いもの上位3種類は右表の通りです。

単位：kg

物質名	2010 年度	2011 年度	2012 年度
アセトニトリル	299	140	442
クロロホルム	571	424	489
ジクロロメタン	111	107	336

PCBの管理

PCB特別措置法に基づき、密閉された保管庫において汚染物を防液堤内に収納し、土壌汚染を含む外部流失への対策を実施しています。毎月1回保管状況の巡視·監視を展開し、内部環境監査でも現地確認を実施して第三者によるチェックも行いました。

PCB 保管状況

法令順守·グリーン購入

法令順守

環境法規制及び県条例、市条例等について、順守されているか定期的に確認を行っています。主な法規制は下表の通りです。監視測定としてボイラー排気からの大気測定、最終排水口からの水質測定を定期的に行っています。また、産業廃棄物の保管場所の表示、収集運搬·処分業者一覧の確認を行いました。

法令	順守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	○
水質汚濁防止法	○
下水道法	○
浄化槽法	○
大気汚染防止法	○
悪臭防止法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	○
工業用水法	○
労働安全衛生法	○
毒物及び劇物取締法	○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	○
高圧ガス保安法	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	○
消防法	○
土壌汚染対策法	○
資源の有効な利用の促進に関する法律	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	○
愛知県・岐阜県条例（環境基本条例、廃棄物の適正な処理の促進に関する条例など）	○
名古屋市・春日井市・日進市・可児市条例（廃棄物の減量及び適正処理に関する条例など）	○

グリーン購入

本学ではグリーン購入法に基づき、製品の購入、調達(リース·レンタル含む)時に環境負荷の少ない製品等を優先的に購入することをグリーン購入手順書で定めています。基本的な考え方としては、購入する前に購入の必要性や在庫数の把握、使用方法や使用量の見直しにより、適正量の購入を図り、購入に際しては環境に配慮した製品等を優先して選択し、使用に際しては出来る限り長期の使用または再使用による有効利用に努めています。

環境・社会活動

環境教育

環境科目一覧

本学では様々な環境に関する科目を設置し、環境教育を行っています。2012年度に開講された環境科目を学部ごとに掲載します。

理工学部

- 快適性創造学
- 環境アセスメント
- 環境デザイン図法
- 環境リモートセンシング
- 環境気象学
- 環境共生都市論
- 環境経済学
- 環境材料学
- 環境創造学実験
- 環境創造設備学
- 環境造形学
- 環境測量学
- 環境測量学実習
- 環境文化論
- 環境法
- 環境倫理
- 基礎環境創造学
- 気圏環境学
- 技術者倫理
- 居住環境設計
- 景観美学
- 建設材料リサイクル
- 建築環境デザイン
- 建築環境概論
- 建築環境工学
- 建築環境実験
- 建築環境物理
- 交通環境工学
- 材料リサイクル
- 水域環境創造学
- 水環境学
- 水質処理学
- 生活環境論
- 地殻変動学
- 地圏環境学
- 地圏環境変遷学
- 都市環境設計
- 化学２

農学部

- 生物資源学概説
- 動物分類・形態学
- 食用作物学
- 基礎昆虫学
- 生物資源学実験
- 農業環境微生物学
- 熱帯農業論
- 作物学実験
- 園芸学実験
- 遺伝育種学実験
- 植物病理学実験
- 昆虫学実験
- 応用生物化学概説
- 食物文化論
- 機器分析化学
- 食品化学総論
- 応用生物化学実験Ⅰ～Ⅳ
- 農薬化学Ⅰ
- 生物制御化学Ⅰ
- 食品衛生学
- 公衆衛生学
- 応用生物化学実験Ⅴ～Ⅶ
- 生物環境科学概説
- 生物環境実習
- 環境分析化学
- 緑地環境学
- 物質循環論
- 環境微生物学
- 生態学
- 環境動物学
- 植物機能科学
- 保全植物学

薬学部

- 薬学入門Ⅰ
- 衛生化学Ⅰ
- 感染予防学
- 公衆衛生学
- 薬学入門Ⅱ
- 環境科学
- 衛生化学Ⅱ
- 臨床微生物学

都市情報学部

- 都市のデザイン
- 防災とまちづくり
- 水利用の計画
- 水環境とまちづくり
- 都市の環境
- 環境の政策
- 環境の評価
- 都市と生態環境
- 地域環境の保全

人間学部

- 環境人間学
- 環境社会学
- 都市文明史

経営学部

- 環境経済論Ⅰ
- 環境経営論
- 環境経済論Ⅱ
- 社会環境経済論

経済学部

- 環境経済論
- 地球環境政策論
- 地域環境政策論
- 環境経済論Ⅱ
- 環境ビジネス論

法学部

- 環境法

第11回ISOフォーラムの開催

ISO フォーラムの様子

名城大学環境対策専門委員会が主催する「第11回ISOフォーラム」が12月15日、名城大学附属高等学校第一体育館で開催されました。「地球環境は自分たちで守る!名城大学附属高等学校からのメッセージ」をテーマに約300人が参加しました。

フォーラムの基調講演では、附属高校生も活動に参加している「庄内川と矢田川をきれいにする会」の活動内容について、原彰名誉教授より紹介がありました。

附属高校生による環境活動の取り組み事例として、附属高校の生徒会からは「生徒会環境推進活動の取り組みについて」、SSHクラスからは「環境調査の取り組みについて（庄内川･新川の水質調査）」、SSコースの生徒からは「庄内川とその周辺の生物環境について」と題して、それぞれ発表がありました。

大学からは、ボランティア協議会環境ボランティア代表の尾崎悦子さん（経済学部）から、ボランティア協議会の活動内容のうち、途上国へのポリオワクチン寄付を目的としたペットボトルのキャップ回収活動や、クリーンアップ大作戦など環境に関する活動報告がありました。

閉会の挨拶では、環境対策専門委員会の伊藤政博委員長（理工学部教授）より、各活動を称賛する言葉と共に今後の活動に向けての抱負が語られ、第11回ISOフォーラムは盛況のうちに閉幕しました。

名城大学ISO14001フォーラムのあしどり

第１回　2001 年開学 75 周年フォーラム
日程 : 平成 13 年 9 月 21 日 (金)

第２回　認証取得記念 / フォーラム
日程 : 平成 14 年 12 月 14 日 (土)

第３回　フォーラム
環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
ー学生・教職員の立場からー
日程 : 平成 15 年 12 月 13 日 (土)

第４回　環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
ー認証取得 3 年を経過してー
特別講演「環境と法」
日程 : 平成 17 年 4 月 23 日 (土)

第５回　環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
ーエネルギートーク in 名城大学ー
日程 : 平成 18 年 6 月 24 日 (土)

第６回　SO14001 フォーラム
ー基調報告と映画上映ー
日程 : 平成 19 年 12 月 8 日 (土)

第７回　ISO14001 フォーラム
「地球温暖化問題」
ー現在の産業界の取り組みと我々のすべきことは？ー
日程 : 平成 20 年 12 月 4 日 (木)

第８回　ISO14001 フォーラム
「生物多様性と環境保全」
日程 : 平成 21 年 12 月 5 日 (土) 13：10 ～ 15：40

第９回　ISO14001 フォーラム
「大学と企業における環境への取組み」
日程 : 平成 22 年 12 月 4 日 (土) 13：10 ～ 15：00

第 10 回　ISO14001 フォーラム
「大学環境活動で学んだこと～これからの環境活動へ～」
日程 : 平成 23 年 12 月 3 日 (土) 13：10 ～ 16：00

第 11 回　ISO14001 フォーラム
「地球環境は自分たちで守る！名城大学附属高等学校からのメッセージ」
日程：平成 24 年 12 月 15 日（土）9：30 ～ 12：00

天白キャンパスでエネルギー設備の見学ツアーを実施

施設部環境グループは、本学の学生たちを対象に天白キャンパス内のエネルギー設備の見学ツアーを6月21日に実施しました。この見学ツアーは、エネルギーの大切さや省エネに対する意識を持ってもらうことを目的に、環境対策専門委員会学生WG（ワーキンググループ）を通じて広く参加を呼び掛けて行っています。2009年度から毎年1回開催し、今回で4回目の開催となりました。

見学ツアーの様子

当日は雨の中、約40人が参加し、施設設備を管理している常駐業者の説明のもと、共同溝やエネルギーセンターを約1時間かけて見学しました。参加した学生たちからは、「見学した場所は、上の階で行われている授業を支えている大切な設備。まさに縁の下の力持ちですね」などの声が聞かれました。

大変好評だったため、施設部環境グループでは、今回雨で見学できなかった太陽光パネルやヒートポンプチラーなどを見学できるツアーの開催を検討しています。

都市情報学部で「フレッシャーズセミナー」を開催

里山散策の様子

都市情報学部では、新入生の親睦と学生生活をスムーズにスタートするために必要なマナーなどを学んでもらうため、4月6日、13日、17日の3日間、新入生を対象に「フレッシャーズセミナー」を開催しました。

セミナーでは教職員紹介、マナー講座、懇親会のほか、避難訓練、都市情報学部の立地を生かした里山散策を実施しました。クラブ紹介も同時に行われ、学生たちは食事を取りながら興味深く先輩たちのアピールに聞き入っていました。

里山散策は、昨年、天候不順で中止になったため2年ぶりの開催となりました。参加した学生たちは、近くの「鳩吹山」山頂（標高313m）までの里山散策や、里山整備作業を通して、一緒に汗をかくことで親睦を深め、楽しんでいました。

内部環境監査員養成研修

2012年度内部環境監査員養成研修を8月28日、29日の2日間実施しました。

内部環境監査員は、名城大学環境マネジメントシステム（EMS）の継続的な改善を図るために重要な役割を担っています。今年度は、教職員だけでなく大学院生も対象に加えて実施し、19人の教職員、大学院生が受講しました。研修講義の一つである模擬現場監査では、受講者4人程で編成された監査チームが、現場担当者に扮した講師に鋭い質問を展開する場面もありました。参加者たちの真剣さに、講師を務めた株式会社日本環境認証機構（JACO）の中村治時氏より高い評価をいただきました。次回内部監査において、研修の成果が期待されます。

研修の様子

環境活動

エコノパワークラブによる省エネカーレース出場

名城大学エコノパワークラブでは、全国各地で開催される省エネカーレースに毎年出場し、優秀な成績をおさめています。

6月2日に千葉県成田市の日本自動車大学校NATSサーキットで開催された「第22回省エネカー競技会」（日本省エネカー研究会など主催）に出場したエコノパワークラブの競技車両「Nova号」は、一般クラスで1,634.85km/Lの燃費を達成して優勝しました。この競技では1周1,110mのコースを時計回りに11周（平均速度24km/h以上）走行し、1リットルあたりの走行距離を計算し競争します。走行コースは登坂勾配及びカーブの多いテクニカルコースでしたが、「Nova号」は車体、エンジンの性能、セッティング技術の高さで優勝に輝きました。

6月16日に鈴鹿サーキットで開催された「Hondaエコマイレッジチャレンジ2012第26回鈴鹿大会」グループⅢ（大学の部）では、雨天でコース路面が高速スピンを発生しやすい悪条件の中、昨年に続き1位、2位を独占しました。「Nova号」は640.66km/L、「MEGV2004号」は611.05km/Lと、念願の記録を達成してのワン・ツーゴールでした。

優勝した「Nova号」

第22回省エネカー競技会

本田宗一郎杯
Hondaエコマイレッジチャレンジ
2012 第32回全国大会

9月15日、16日には、栃木県茂木市のツインリンクもてぎレース場で開催された「本田宗一郎杯Hondaエコマイレッジチャレンジ2012第32回全国大会」大学の部へ出場しました。この競技は、1リットルのガソリンで走行する距離を競うもので、平均走行速度25km/h、規定時間39分20秒11の制約がある中で行われます。「Nova号」は、1,926.05km/Lを走行し、昨年の記録1,904.89km/Lを約21km/L伸ばして準優勝しました。

エコノパワークラブでは、日々燃費向上の研鑽を積んでおり、今後のレースでの活躍が期待されています。

エコノパワークラブのメンバーと競技車両

環境・社会活動

「キャンドルナイト・イン・名城」の開催

キャンドルによる「ECO」の文字

環境対策専門委員会学生WG（ワーキンググループ）は、大学祭協賛企画として「キャンドルナイト・イン・名城」を、大学祭の初日である11月1日に開催しました。

キャンドルナイトは、「電気を消してスローな夜を」を合言葉に、冬至に合わせて全国で企画されており、名城大学でも天白キャンパスで4年前から行っています。

4回目の今年は、多くの来場者が集う大学祭と初めてコラボレイトして企画され、例年の倍にあたる約1,000個のキャンドルによって「ECO」の文字が点灯されました。キャンドルのゆるやかな光の列の前では、記念撮影する光景が多く見られました。

「打ち水大作戦in名城」を全国発信

施設部環境グループと環境対策専門委員会学生WG（ワーキンググループ）は、7月11日と18日の朝、「打ち水大作戦in名城」を天白キャンパスの共通講義棟前広場で開催しました。

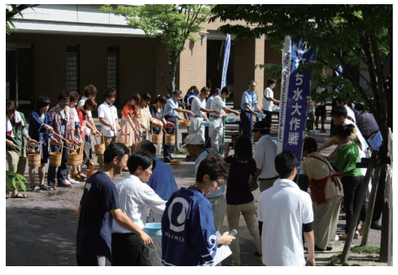
昨年度に続いて2回目の開催となる今回は、学生WGによって呼びかけられた学生、教職員、ビル管理会社らが2日間でのべ約400人参加しました。

初日の11日は、朝8時半頃からボランティア協議会会長の久米悠介さん（法学部）の掛け声で一斉に打ち水が行われました。

打ち水前に28.6℃あった気温は20分後には27.7℃まで下がり、マイナス0.9℃をマークしました。2回目となる18日には、31.7℃あった気温は29.8℃と1.9℃も下がり、目標にしていたマイナス2℃には、届かなかったものの、“打ち水効果”が実証されました。

参加した学生からは「気持ちいい」の歓声が相次ぎ、打ち水に参加するため、豊川市の自宅を午前6時半に出たという女子学生は「機会があったらまた参加したい」と話していました。

11日には中京テレビ、東海テレビが、18日にはNHKが取材に訪れました。梅雨も明け、全国的な夏の到来ということもあって、NHKでは名古屋地区でのお昼のニュースや、夕方の情報番組「ほっとイブニング」に続いて午後7時からの全国ニュースでも、名城大学の「打ち水大作戦」の取り組みが紹介されました。



打ち水大作戦の様子

社会貢献活動

天白環境事業所と環境パトロールを実施

名古屋市天白環境事業所と合同で、ボランティア協議会の学生たちが、本学周辺アパートなどでのごみ出しの分別状況を点検する環境パトロールを6月11日に実施しました。

合同パトロールは、名古屋市のごみ分別収集が厳格化されたことをきっかけに、特にアパートなど賃貸住宅のごみ分別の徹底を図るため2006年から続けられています。当日は、午前7時半頃から、事業所職員たちと一緒に大学東門周辺をパトロールし、ごみ分別の様子を点検しながら、事業所職員より、「生ごみは見えないようにする」「ごみは当日に出す」などの説明を受け、約1時間パトロールを行いました。

天白環境事業所職員の説明を受ける
ボランティア協議会の学生たち

「トライアルサタデー」の開催 ～科学おもしろ実験&エコ工作にチャレンジ講座～

講座の様子

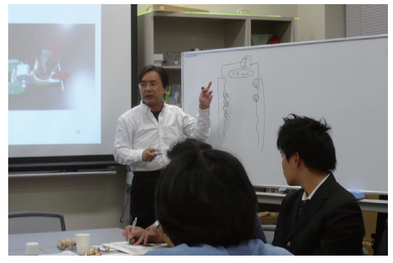
6月2日、23日、名古屋市昭和生涯学習センターにおいて、小学生の親子15組（30人）を対象に、「トライアルサタデー」（同学習センター主催）が開催され、本学総合数理教育センターの教授らが講師を務めました。「科学おもしろ実験講座&エコ工作にチャレンジ」「電気パンを焼こう!」「身近なプラスチックの素材の名前を当てよう!」「紙工作ロボット・ランニングキャットを作ろう!」などの実験を通じて、ごみとして捨てがちな物を活用することでリサイクルに対する考え方を学び、身近な材料で道具をつくり観察することで、参加者たちに科学を身近に感じてもらうことができました。

同講座は総合数理プログラム「サイエンス・ボランティア入門I」の授業の一環で、市民に科学教育の大切さを伝える人材育成の役割も兼ね、本学学生11人が実験の補助を務めました。学生たちは参加者との交流を通じて、サイエンス・ボランティアの大切さを学習しました。

「環境科学実験の楽しみ」で第2回総合数理談話会の実施

総合数理教育センターでは、10月25日に総合数理サロンにおいて、東京理科大学理学部物理学科の川村康文教授を講師に迎え、「平成24年度第2回総合数理談話会」を開催しました。「人生を楽しく生きる!～環境科学実験を楽しみながら～」をテーマに、高校生・大学生、教職員及び一般市民など16人が参加しました。

太陽電池フィルムやサボニウス型風車（フィンランドのサボニウスが発明した風車）を自作する活動についての講演があり、参加者たちは「ぜひ作ってみよう」と大いに刺激を受けた様子でした。



談話会の様子

環境･社会活動

「クリーンアップキャンペーン」を実施

都市情報学部は、7月5日と11月8日の2回、「クリーンアップキャンペーン」を実施しました。可児キャンパス周辺の美化と、ボランティア活動を通して学生たちと地域住民との交流を深めることを目的として、学生たちの昼休み時間を利用して毎年実施されています。

通学路でもある名鉄西可児駅までの2コースと、国道41号の虹ヶ丘交差点方面へのコースに分かれ、学生たちや、教職員、地域の虹ヶ丘自治会関係者ら合わせて約80人がごみ袋とごみばさみを手に活動しました。

ペットボトルや、不法投棄された大型ごみも目立ち、予想以上のごみの多さに、学生たちはマナーを守ることの大切さを改めて感じた様子でした。ごみ袋を手に大学に戻った学生たちは、拾ったごみを分別し、午後からの授業を受けに行きました。

クリーンアップキャンペーンの様子

環境講演「エコ事業所表彰事業所から学ぶ2012」を開講

施設部環境グループは、10月17日に「エコ事業所表彰事業所から学ぶ2012～トップランナー企業の現場からヒントを得る～」をテーマに名城大学の環境活動について講演を行いました。

この講演は、2月に天白キャンパスが名古屋市長から「第1回なごや環境活動賞」を受賞したことがきっかけで同市から依頼されました。環境問題に関心のある一般市民や企業･近隣大学の担当者ら約20人が参加しました。講演後には、太陽光パネルやクールチューブなど環境に関わる施設の見学会を開催しました。参加者からは、「大変参考になった。実践できるように生かしたい。」「クールチューブに入ることができ省エネを体感できた。」などの感想があり、講演会は大盛況のうちに終了しました。

講演会の様子

クールチューブ見学会の様子

農学部附属農場で各種イベントを開催

春日井市の農学部附属農場では、田植祭や収穫祭、オープンファームなど、農場ならではのイベントを毎年開催しています。

＜田植祭＞

6月16日に行われた田植祭には、学生、教職員、附属高校生及び附属農場との連携講座を受講する春日井市民ら約280人が参加しました。

田植祭は2001年度から学部行事として、天白キャンパスを含めた大学関係者や附属高校生が参加する形で行われています。田植えシーズンとあって、この日もあいにくの雨でしたが、参加者たちは農場職員の指導で次々に田んぼの中に入り、雨に打たれながら田植えをしました。

田植祭の様子

＜収穫祭＞

田植祭から4か月後の10月20日には、学生、教職員とその家族ら約300人が参加し、田植した稲を刈り取る収穫祭が開催されました。

農学部長の大場正春教授による挨拶の後、参加者は農場職員から稲の刈り方や束ね方を教わりながら黄金色に実った稲を刈り、秋晴れの中で収穫を楽しみました。稲刈り終了後には農場特製の豚汁などが振る舞われ、収穫作業を終えた参加者たちは、とてもおいしそうに頬張っていました。今年の豚汁の1つの鍋には、応用微生物学研究室から提供された特製味噌が使用され、大好評でした。

収穫祭の様子

＜オープンファーム＞

11月10日にはオープンファームが開催され、過去最高となる524人の来場でにぎわいました。今年で7回目となるこのイベントは、農業に触れ合うことが少ない子どもたちにとって貴重な体験ができる機会として、毎年親子連れを中心に好評を得ています。

当日はさわやかな秋晴れに恵まれ、稲刈りや里芋掘り体験、トレーラーでの農場遊覧、園芸教室、農産物販売などに多数の来場者が参加しました。稲刈りや里芋掘り体験では慣れない手つきで親子が一生懸命に鎌やスコップをふるい、収穫の喜びを味わっていました。農場遊覧は常に順番待ちの列ができる盛況ぶりで、中には繰り返し何回も乗る子どももおり、大人気でした。毎年恒例の農産物販売では、農場で生産した野菜、果物、花、米、卵などを目当てに販売開始前から来場者たちの列ができるなど、農場の実りの秋を満喫した1日でした。

オープンファームの様子

労働安全衛生の取り組み

労働安全衛生の管理体制

本学では労働安全衛生法に基づき、安全衛生管理体制を構築し運用しています。
働きやすい、学びやすい環境づくりのため、定期的な安全衛生委員会の開催と共に、産業医と衛生管理者による職場巡視によって、大学内の事故や災害の原因となりうる危険箇所を特定･把握し、改善に努めています。

名城大学安全衛生方針

1.安全衛生基本方針

学校法人名城大学は、関係法令を順守すると共に、安全で衛生的な環境の整備を心がけ、教職員及び学生等の安全確保と健康増進に取り組みます。

2.行動方針

学校法人名城大学は、安全衛生基本方針に基づき、安全衛生マネジメント活動を最重要課題の一つとして掲げ、次の事項を実行します。

① 安全衛生に関する法令を順守します。
② 学内外の活動に係る安全衛生リスクの低減に努めます。
③ リスクアセスメントに基づき、安全衛生目標を設定します。
④ 安全衛生に関する教育･訓練を実施し、本方針と安全衛生マネジメントシステムを周知します。
⑤ 安全衛生マネジメントシステムの維持管理と改善に努めます。

農作業従事者を対象とした安全講習会を開催

安全講習会の様子

農作業に従事する教職員が多い附属農場では、業務内容も危険性を伴うものが多く、農作業経験が浅い教職員や年齢の高い教職員の従事割合も高いことから、事故が重傷事故へつながる可能性が高まることが懸念されていました。

このような状況を受け、危険予防のための情報提供と安全意識向上を目的とした安全講習を附属農場で実施しました。

当日は中央労働災害防止協会から講師を招き、具体的な事故事例や刈払機や脚立の安全な使い方、ヒヤリハット、熱中症対策について講義を行い、27名の農作業従事者が受講しました。受講者からは、「自己流で使用しがちな農業機具について、その危険性や使用方法について再確認することができた。」「安全意識を持って今まで以上に作業に取り組みたい。」などの感想が寄せられました。

安全衛生委員会では、教職員等の安全意識の向上と業務災害の未然防止に向けた取り組みとして、今後も継続的に安全講習会を実施していく予定です。

防災への対応

本学では、火災発生時の対応についての訓練を定期的に実施しています。2012年度は、12月11日に約30名が参加して消火器取り扱い訓練、スプリンクラー設備操作説明等を行いました。

消火器の取り扱い訓練では、消火方法等の解説後に、カラーコーンを火災現場に見立て、訓練用の消火器を使っての放水訓練を全員参加で実施し、初期消火活動の重要性を認識しました。スプリンクラー設備の操作説明では、消火が終了した際の止水方法についての訓練を行い、参加した教職員は、真剣に耳を傾けていました。

消火器取り扱い訓練の様子

スプリンクラー設備操作説明の様子

警戒宣言と東海地震について

1976年の日本地震学会及び地震予知連絡会で、東海地震説のもとになった「駿河湾地震説」が発表され、現在東海･東南海･南海地震、さらに九州の日向灘地震が加わった4連動地震説、南海トラフ地震説が取り沙汰されています。

巨大地震がいつ発生するか予想は難しいですが、身の安全を図るために有効な情報が発表されています。

主な情報としては、①警戒宣言、②東海地震に関する情報、③緊急地震速報、④津波警報がありますが、今回は馴染みが薄い警戒宣言と東海地震に関する情報についてご紹介します。

「警戒宣言」は、気象庁長官が「もうすぐ東海地震が起きそうだ」と判断し、内閣総理大臣が閣議にかけて発表する情報です。

東海地震に関する情報は、「東海地震に関する調査情報」、「東海地震注意情報」、「東海地震予知情報」の3つに分類されています。「東海地震に関する調査情報」は観測データに異常が現れた場合に発表されるもので、東海地震発生との関係についてはしばらく様子を見なければ評価できないため、平常時と同様に過ごしていただき、情報収集をお願いします。

「東海地震注意情報」は東海地震の前兆現象の可能性が高まった場合に発表されます。このため「東海地震注意情報」が発表されますと、テレビ･ラジオ等から繰り返し伝えられますので、①不必要な外出はしない。②できる限り帰宅する。(公共交通機関は運行しています)③正確な情報を確認するなど、地震に備える準備をしてください。

「東海地震予知情報」は、「警戒宣言」が発表された場合に発表され、テレビ･ラジオに加え、市内各所においてサイレン、警鐘が鳴ります。公共交通機関は運行中止となりますので、徒歩による帰宅や、近くの避難場所に避難してください。

各種情報の持つ意味を熟知し、先手必勝で災害に対応することが自分の身を守り減災に繋がります。

編集後記

総括環境管理責任者からのメッセージ

総ての人がエネルギーの使用に強い関心を持ち、これまでの認識と行動を大きく切り替えなければならない。

2011年3月11日、14時46分に三陸沖を震源とする国内観測史上最大、千年に一度と言われるMw9.0の地震(東北地方太平洋沖地震)が発生し、この地震による巨大津波が青森、岩手、宮城、福島、茨城県及び日本各地の海岸に打ち寄せました。そのため、福島第一原子力発電所では津波の浸水により、電源喪失が生じ、水素爆発が起こり、大規模な原子炉の炉心溶融事故が起きました。現在は、原子炉の廃炉に向けて、汚染水のコントロールに命をかけて多くの専門技術者が、必死に取り組んでいますが、原子炉の完全な廃炉には数十年以上かかるといわれています。一方、原子力に変わる代替エネルギーの開発と実用化には、恐らく数十年以上の歳月がかかるでしょう。

日本の電気エネルギーの約20%を賄ってきた原子力に変わる代替エネルギーとして、化石燃料を燃やしてCO_2を大量に排出する火力発電に多くを頼らざるを得ません。ものを燃やすと出るCO_2の排出は、地球温暖化に大きな影響を与えます。地球温暖化の影響とされる異常な猛暑、竜巻、干魃、豪雨などの異常気象が毎年のごとく、日本のみならず世界で頻発しています。2013年11月8日にフィリピン諸島の中部を直撃した世界最強クラスの台風30号は、上陸時点で中心気圧895hPa(比較:日本の観測史上最低925hpa/1951年9月16日の第2室戸台風)、最大風速65m/s、最大瞬間風速90m/sで、 7mにも及ぶ高潮が発生しています。因みに、1959年の伊勢湾台風における高潮は3.89m(TP)です。特に日本は、台風が通過する位置にあるので、対岸の火事ではありません。まさに「備えあれば憂いなし」です。

快適な教育·研究はもちろんのこと、生産活動を止めることなく経済·社会活動を持続するには、総ての人がエネルギーの使用に強い関心を持ち、これまでの認識と行動を大きく切り替えなければならないでしょう。

名城大学の各学部、各学科及び専攻(修士·博士課程)では、環境に関わる授業科目が計256科目開講されています。また、高度な教育と研究を行うために、実験実習及び研究に使用される薬品·器具は膨大な量が使用され、使用した廃棄物(廃薬品、器物、プラスチック、ガラス·陶磁器、引火性廃油など)も膨大な量になっています。これら化学物質等は教員のみならず学生·院生の皆さんに深く関係します。その取り扱いは、廃棄物処理法、ポリ塩化ビフェニル廃棄物特別措置法、電気事業法、水質汚濁防止法、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)、毒劇物取締法、アルコール事業法、下水道法、浄化槽法、騒音規制法、振動規制法、高圧ガス保安法などの規制に留意するとともに、愛知県や名古屋市等の各自治体の条例に従わなければなりません。

これら様々な環境規制に対応するために、本冊子の7頁に示す名城大学の環境理念と方針を掲げ、環境教育(環境に係わる教育活動の推進)、環境関連研究(環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開)、省エネルギー·省資源の推進、グリーン購入の推進、一般廃棄物及び産業廃棄物の適正管理、を中心に環境保全活動を行っています。この効果の一つとして、徹底した廃棄物の分別により、従来はごみとして廃棄していたものを買い取ってもらうなど、収益を得ています。

このような本学における環境配慮活動は高く評価され、2012年2月7日に名古屋市長から、第1回なごや環境活動賞が本学に授与されました。

本冊子には、名城大学における環境教育活動の成果とその評価の概略がまとめてあります。この内容を理解して実践していただき、約16,000有余名の学生の皆さんが快適な雰囲気の中で学び、かつ研究のできるキャンパスの環境創造に協力願えれば幸いです。

総括環境管理責任者
理工学部 環境創造学科
教授 伊藤 政博

ガイドライン対照表

この報告書は、環境省発行の「環境報告ガイドライン(2012年版)」に基づき作成しています。ガイドライン項目と記載ページの一覧を下表に示します。

記載する情報・指標	記載ページ
基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	1
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	—
(3) 報告方針	1
(4) 公表媒体の方針等	1
2. 経営責任者の緒言	2
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	3～6
(2) KPI の時系列一覧	11～16
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	11、12
4. マテリアルバランス	10
環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	7
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	11、12
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	8
(2) 環境リスクマネジメント体制	27、28
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	18
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	24～26
(2) 環境に関する社会貢献活動等	23～26
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	18
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	19～22
(4) 環境関連の新技術・研究開発	—
(5) 環境に配慮した輸送	—
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発 / 投資等	—
(7) 環境に配慮した廃棄物処理 / リサイクル	16

記載する情報・指標	記載ページ
事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	10、14
(2) 総物質投入量及びその低減対策	10、15
(3) 水資源投入量及びその低減対策	10、15
2. 資源等の循環的利用の状況	15
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	—
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	10、13
(3) 総排水量及びその低減対策	10、15
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	18
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	17
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	10、16
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	17
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	26
環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	—
(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	27、28
その他の記載事項等	
1．後発事象等	—
2．環境情報の第三者審査等	—

名城大学 環境報告書

MEIJO UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT 2013

2013

発　　行　名城大学 経営本部 施設部
住　　所　〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
T　E　L　代表 052-832-1151（内線2169、2161）
ダイヤルイン　052-838-2011
F　A　X　052-833-5523
U　R　L　http://www.meijo-u.ac.jp/
E-Mail　ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp

このロゴはなごや環境活動賞を受賞した事務所に付与されるロゴです。

2014.4.1